オープンシステム構築に最適化した情報システム開発標準の整備

林　和史*
山下洋徳*
中原智哉*

Implementation of Information System Development Standard for Open Systems

Kazufumi Hayashi, Hironori Yamashita, Tomoya Nakahara

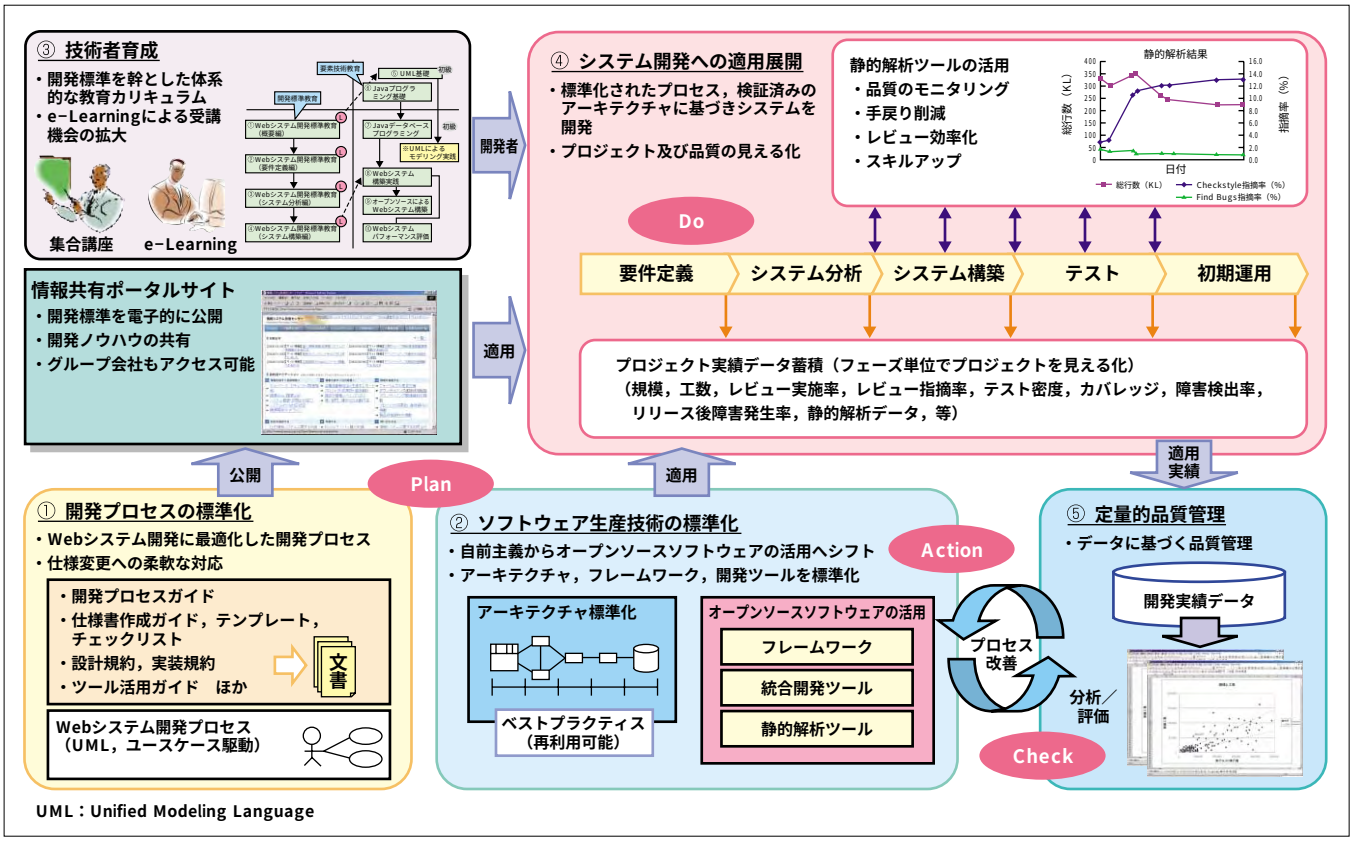
要　旨

情報システムの2000年問題が収束したあと，C／S(Client Server)型システムに代わり，オープンシステム，特にWebシステムが主流となりつつあった。

情報システムに求められる要件が高度化・複雑化するにしたがい，システム構築技術も進化を続け，設計・実装技術や開発方法論の大きなパラダイムシフトが起きていた。また，オープンシステムでは様々なベンダーのソフトウェアやハードウェアを組み合わせてシステムを構築するため，技術的なリスク要因が多く，かつソフトウェアの設計が属人的になりやすいことから，生産性や品質の向上を図るためには開発手順の標準化が必要であった。

そのため三菱電機では，2004年度からWebシステム開発をターゲットとして開発プロセス・開発技法の体系化・標準化に取り組んできた。

標準化にあたり，自前主義を廃して業界標準を広く取り入れ，①開発プロセスの標準化，②ソフトウェア生産技術の標準化，③技術者育成を３本柱として並行して推進し，全社へ展開中である。すべての成果物は情報共有ポータルサイトで公開されており，当社のグループ会社も含め広く入手可能としている。現在は，④システム開発への適用展開を行う中で，プロジェクトの見える化，及び⑤定量的品質管理を推進し，プロセス改善に向けたPDCA(Plan−Do−Check−Action)サイクルの定着に取り組んでいる。



Webシステム開発標準に基づくプロセス改善のＰＤＣＡサイクル

２００５年度までに開発プロセスの標準化，再利用可能なアーキテクチャの標準化を行い，２００６年度にはフレームワークや静的解析ツールなどのオープンソースソフトウェアの活用手順を標準化した。また，並行して開発標準を幹とした体系的な教育カリキュラムを作成し，新技術を活用したWebシステム開発に対応できる技術者の育成を進めた。これら開発標準に基づきプロセス改善のＰＤＣＡサイクルを回す。